

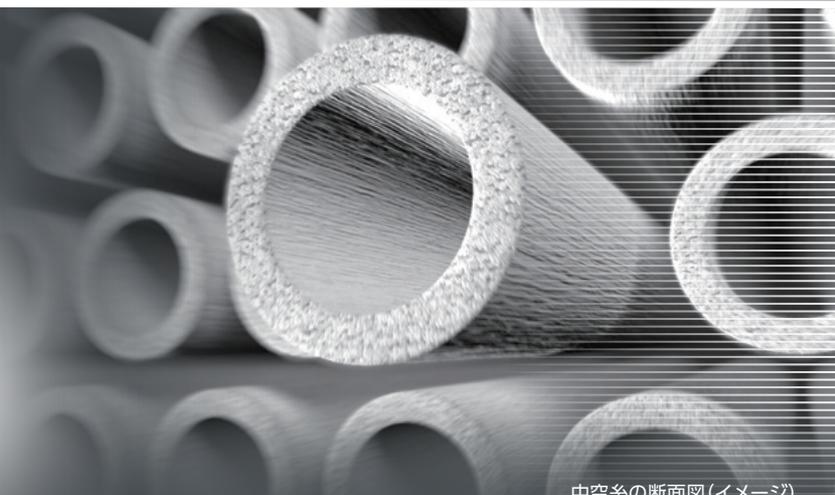
第101期
株主通信

2015年4月1日～2016年3月31日

証券コード:4543

特集:テルモの人工肺、大河内記念賞を受賞

中空糸を用いた人工肺開発とその生産技術の確立



中空糸の断面図(イメージ)

株主の皆様へ



代表取締役社長CEO
新宅 祐太郎

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

この度の熊本地震において、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当期、当社グループの業績は、引き続き海外のカテーテル(TIS)事業、ニューロバスキュラー(脳血管)事業の売上が二桁伸長し、加えて心臓血管カンパニーを中心とした高収益品の売上拡大やコスト改善により増収増益となりました。売上高、営業利益、経常利益および純利益とともに過去最高を更新し、2017年3月期の目標として掲げていた、のれん等償却前営業利益率20%を1年前倒しで達成いたしました。

世界の医療機器市場は、財政制約がある中で医療経済性へのニーズが高まるなど、今後も需要の拡大が見込まれていますが、グローバルな業界再編が進むとともに、足元では、中国など一部の新興国で経済成長の鈍化や通貨下落が見られるなど、事業環境は変化しつつあります。このような変化に対し、当社は持続的かつ収益性のある質の高い成長を目指し、カンパニーを軸としたグローバル経営を推進するとともに、カンパニーの事業運営を支えるグローバル本社機能の強化を図ってまいりました。患者さんの負担軽減や医療経済性の向上などに貢献する高付加価値分野の強化や、継続的な原価低減、事業のたな卸しなど収益性の改善に注力した結果、環境の変化にも柔軟に対応し得る、

筋肉質な経営体質を構築しつつあります。さらに、今後の成長を支える研究開発活動の強化や他社との提携・買収なども実行し、着実に成果が上がっております。これらの成果を基に、「世界で存在感のある企業になる」という長期目標を達成すべく、今期中に新たな中長期成長戦略の検討を進め、持続的かつ収益性のある質の高い成長の実現を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当方針

当社は、高い収益性と持続的な成長を確保するため、利益の再投資を適正かつ積極的に進め、企業価値の一層の増大を図っていきます。株主の皆様への利益配分につきましては、安定的に配当を増やし、中長期的に配当性向30%を目標にしてまいります。

当期の年間配当金は、1株につき39円といたします。したがって、期末配当金

は、既にお支払いした中間配当金19円を差し引き、1株につき20円となります。

次期の年間配当金は、1株につき41円(うち中間配当金20円)を予定しております。

(注)当社は、2014年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2013年3月期および2014年3月期における配当金につきましては、当該株式分割を考慮した額を記載しております。

■ 1株当たり配当金



テルモの人工肺、大河内記念賞を受賞

中空糸を用いた人工肺開発とその生産技術の確立

心筋梗塞をはじめとする心臓病などの手術をする場合、一時的に心臓を止めなければなりません。その間、患者さんの生命の維持に必要なのが、血液を体外で循環させ、人工肺で酸素と二酸化炭素のガス交換を行う人工肺システムです。

1970年代、当社は血液損傷や長時間使用ができないなどの人工肺の従来技術の課題克服を目指し、ガス交換性能の安定化、性能向上、小型化を追求して、当時夢の人工肺として望まれていた膜型人工肺の開発を始めました。試行錯誤の末、人工肺に適した素材の特定により、世界初の多孔質ポリプロピレンの中空糸(細い筒状の繊維)を用いた人工肺の開発に成功、1982年「キャピオックス」を欧州・米州・日本で同時に発売し、より安心して手術に専念できる人工肺の開発を実現しました。

その後、30年以上にわたり改良改善の手を緩めることなく、独自の製造方法による中空糸の内製化やその仕様の見直しによって、ガス交換効率をより



世界初の中空糸を用いた人工肺



第62回大河内賞 授与式の様子

高め、患者さんの負担の低減を追求した人工肺の開発を進めてきました。このように、今日まで脈々と続く進化は、世界の心臓外科手術を支えています。

この功績が認められ、今年2月に、生産工学や生産技術に関し、学術の進歩と産業の発展に寄与した者に贈られる第62回大河内賞*のうち最高位の大河内記念賞を受賞しました。

テルモは、今後も日本ならびに世界の患者さんに向けて、より良い医療を届けるためにイノベーションへの挑戦を続けてまいります。

※大河内賞：理化学研究所所長を務めた大河内正敏博士が生産工学の普及を通じて近代国家の発展に貢献した功績を記念して設立された権威ある賞。生産工学、生産技術分野での卓越した業績を表彰。

業績ハイライト

売上高は、前期比7.3%増の5,250億円となりました。

日本では、心臓血管カンパニーでカテーテル(TIS)事業の売上が好調に推移するとともに、ホスピタルカンパニーで閉鎖式輸液システムや腹膜透析向けの製品などの売上が伸長し、前期比2.2%増の1,872億円となりました。海外では、米国および

中国を中心とするアジアのTIS事業とニューロバスキュラー(脳血管)事業の売上が好調に推移し、前期比10.3%増の3,378億円となりました。営業利益は、国内外における高収益品の売上拡大と継続的な原価低減による売上総利益の増加が寄与し、前期比21.1%増の817億円となりました。

2016年3月期

売上高	5,250 億円
前期比	+7.3%
営業利益	817 億円
前期比	+21.1%

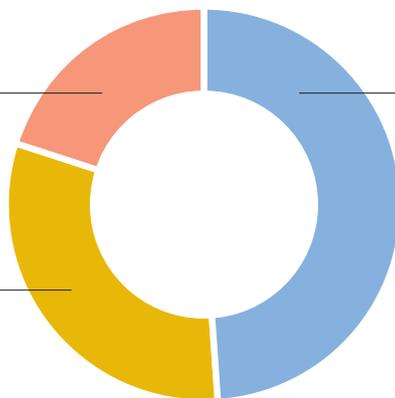
カンパニー別売上高

血液システムカンパニー

20%
1,050 億円
前期比 +3.9%

ホスピタルカンパニー

31%
1,614 億円
前期比 △0.0%



心臓血管カンパニー

49%
2,586 億円
前期比 +13.9%

地域別売上高

海外合計

64%
3,378 億円
前期比 +10.3%

欧州

19%
1,018 億円
前期比 △2.7%

米州

27%
1,435 億円
前期比 +14.5%

アジア他

18%
926 億円
前期比 +21.1%



日本

36%
1,872 億円
前期比 +2.2%

カンパニー別概況

心臓血管カンパニー

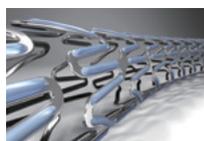
2015年10月に薬剤溶出型冠動脈ステント「Ultimaster」を日本でも発売し、前期に販売を開始した欧州、中南米およびアジアを含め、各地域で売上が好調に推移しました。米国ではTRI（手首の血管から冠動脈にアプローチするカテーテル手技）関連製品の販売が好調に推移しました。また、ニューロバスキュラー（脳血管）事業も海外を中心に売上が大きく伸ばしました。その結果、日本・海外ともに増収となりました。

ホスピタルカンパニー

日本では、閉鎖式輸液システムや腹膜透析、糖尿病向け製品などの売上が伸びた結果、増収となりました。海外では輸液ポンプなどの売上が伸びる一方、欧州および中南米を中心に事業の見直しを進め、収益性の改善に努めました。その結果、カンパニー全体の売上はほぼ前期並みとなりました。

血液システムカンパニー

日本では、献血数の減少に伴い採血関連製品にも影響があり、減収となりました。海外では、米国の血液センター向け製品における価格改定の影響を受けて売上の伸びが鈍化しましたが、アフレスシス治療分野および細胞処理分野の売上が拡大しました。さらに、新興国を中心に血液センター向け製品の販売も堅調に推移し、カンパニー全体では増収となりました。



薬剤溶出型
冠動脈ステント



頸動脈ステント



TRIの様子



輸液ポンプ



血糖測定システム



ペン型注入器用注射針



成分採血システム



細胞増殖システム



血液自動製剤システム

2017年3月期見通し

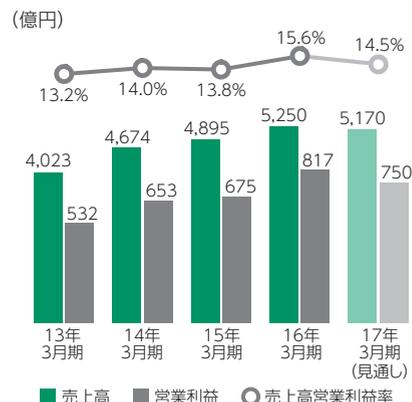
次期は、薬剤溶出型冠動脈ステント「Ultimaster」のグローバル展開を加速するとともに、高成長が続く米国や中国でさらなる事業拡大を目指します。売上は現地通貨ベースで好調を維持しながらも、為替の影響を大きく受け減収減益を見込みます。そうした中でも、海外カテーテル事業における販売体制の強化に加え、愛鷹工場を中心に開発者を大幅

に増員するなど、中長期の成長基盤を整え、持続的かつ収益性のある成長を目指してまいります。

売上高 **5,170** 億円
前期比 $\triangle 1.5\%$

営業利益 **750** 億円
前期比 $\triangle 8.2\%$

売上高、営業利益 および売上高営業利益率



お知らせ

株主総会 決議内容のお知らせ

2016年6月24日に開催された当社第101期定時株主総会において、以下の通り決議されました。

第1号議案 剰余金処分の件

当期の期末配当金は、1株につき20円となりました。これにより、中間配当金19円を加えた年間配当金は39円となりました。

第2号議案 取締役(監査等委員である取締役を除く)12名選任の件

新宅祐太郎、松村啓史、三村孝仁、佐藤慎次郎、高木俊明、荒瀬秀夫、昌子久仁子、デビッド・ペレス、松永真理、森郁夫および上田龍三の11氏が再選され、羽田野彰士氏が新たに選任されました。
(松永真理、森郁夫、上田龍三の3氏は、社外取締役です)

第3号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

坂口公一氏が選任されました。
(坂口公一氏は、社外取締役の要件を満たしております)

期末配当金のお支払いについて

第101期期末配当金は、同封の「期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、払渡期間中(2016年6月27日～2016年7月29日)にお近くのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、口座振込ご指定の方には、「期末配当金計算書」および「配当金振込先ご確認」のご案内を同封いたしましたので、ご確認ください。

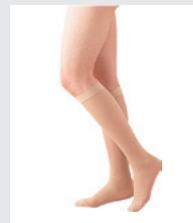
熊本地震 被災地への支援活動

被災地での深部静脈血栓症(エコノミークラス症候群)の予防に役立つとされている弾性ストッキングをはじめ、体温計、血糖測定キットなどの医療物資や義援金を届けました。

- 支援総額：約2,200万円相当
(義援金300万円、医療物資約1,900万円相当)



支援の様子



弾性ストッキング



北里柴三郎博士(資料提供: 学校法人北里研究所)

テルモは、第一次世界大戦の影響で輸入が途絶えた体温計を国産化するために、北里柴三郎博士をはじめとする医師らが発起人となり、1921年に設立されました。

株式についてのご案内

- ◎事業年度 4月1日から3月31日まで
- ◎株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- ◎同連絡先(郵便物送付・電話照会)
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
電話：0120-232-711(フリーダイヤル)
- ◎単元株式数 100株

テルモ株式会社(証券コード：4543)

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号
電話：03-3374-8111(代表) <http://www.terumo.co.jp/>

TERUMO はテルモ(株)の商標です。
テルモ、キャピオックス、Ultimasterはテルモ(株)の登録商標です。

©テルモ株式会社 2016年6月

